

週 報

「信じます。

不信仰なわたしを、
お助けください」。

(マルコによる福音書第9章24節)



人と神、人と人をつなぐ難しい働きをしています
日本基督教団 西宮公会教会

〒662-0834

兵庫県西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691

FAX 0798-63-4044

郵便振替 01170-3-4901

ホームページアドレス

<http://www.koudou.jp/>

電子メールアドレス

koudou@gamma.ocn.ne.jp

小さな手大きな手

(6月21日よりの続き)

- ・6月2日 「第一原発2号機、核燃料計615体、きょう取り出し着手」「第一原発処理水海洋放出を開始、今年度2回目」
- ・6月3日 「核燃料の搬出開始、2号機プール2028年度完了目標」
- ・6月4日 「第一原発2号機プール移動終了へ、核燃料3体容器に収納」
- ・6月5日 「原発建て替え2040年代に5基、経産省目標案、事故後初の数値確定」
- ・6月6日 「原発建て替え、最大14基、経産省2050年代、今年にも決定」
- ・6月11日 「あす葛尾避難指示解除10年、帰村率3割で横ばい、移住者との関係構築に力」「処理水放出が自動停止、福島第一原発、移送過程で警報」
- ・6月14日 「海洋放出再び自動停止」
- ・6月16日 「大熊町、22日一部立ち入り緩和、特定居住区域、準備宿泊実施へ」「汚染水旧式タンク、解体を全て完了、第一原発」
- ・6月17日 「県内森林、セシウム値6年で安定、国の研究グループ調査、森林再生の知見に」

以上、1カ月ほどの新聞が伝える、重大事故から15年半の「物語」は少なくなったとは言え、その数々の「廃炉の最終形」が、虚偽以外の何ものでもないことを、自ずと語っています。

その「虚偽」はと言えば、15年半前の、「事故の原子炉はコントロールされている」が始まりでした。世界は、東京オリンピックを承認することになりました。

「確かに」コントロールされていたと言えなくはありませんが、壊れた原子炉には、壊れたまま冷やす為の水が注がれ、壊れたすき間からの地下水が、壊れた

原子炉から、そのまま高濃度の汚染水となって、漏れ出し続けています。

汚染水は、そのまま環境中に放出する訳には行きませんから、「セシウム」「多核種」とその除去が続けられています。

たとえば、セシウムは、ステンレス製の「吸着塔」に詰め込まれて、東電敷地内に仮置きされていました。

「…第一原発では、1～3号機の熔融核燃料を冷やす注水や原子炉建屋への地下水などの流入によって汚染水が発生している。吸着塔は高さ約3.6メートル、重さ約28.5トン円筒形の容器、ステンレス製で主にセシウムを集める吸着剤が入っている」「放射性物質濃度が比較的高い汚染水処理に用いられたため、一基当たりのセシウム量は数千兆ベクレルに達するものもある」「吸着塔は3月時点で約1000基が屋外に一時保管されている。雨などで腐食すると放射性物質が漏れいする恐れがあるため、保管庫に順次移動し、仮置きの解消を目指す」「保管庫は長さ約186メートル、幅約23m、高さ約17メートル、吸着塔をつり上げるクレーンの設置が5月ごろ完成する予定」「建設中の2021年2月に、福島、宮城両県で最大震度6強を観測した地震が発生したため耐震設計を見直し、外壁に鉄骨フレームを増やしたり地盤を改良したりした」「ただ今回運用を始める保管庫は54基しか収容できない」「このため東電は1200基を収容できる2機目の建設を検討中で、33年度末までに全ての吸着塔など汚染水の浄化で発生した廃棄物を屋内に移す計画」(以上、5月17日、福島民報)。

(次週につづく)